

COOメッセージ

行動こそがすべて

— 不確実な時代における「Acta Non Verba」

03

Project Highlights

07



05 ユーザー訪問記 214
浸水から市街地を守る
要の施設

宇部市 小串ポンプ場

11 ニュースの窓



社内運動会・昼食会・
佐賀物産展を開催

14



15 弾丸ツアー in インド

困難とも世界の人々を幸せにする道、
トリシマがこれからも歩み続ける道です。

CEO 原田 翔太郎

CEO MESSAGE



受注活動は、社会システム本部、産業本部、海外本部(TGT)の全3部門で非常に順調に進展しています。これは、私たちが社会や産業、そして世界の旺盛な需要をしっかりと捉えている証拠でもあります。

社会システム部門(国内官公需)では、ゲリラ豪雨に対する減災を目的とした耐水モータ一体型ポンプや、大流量を可能にする渦対策ポンプの伸びが顕著です。産業部門(国内民間会社)では、CO₂を排出しない燃料である液化アンモニアや液化水素用ポンプの案件が、いよいよ受注段階に入りました。これは、脱炭素社会への移行を支える私たちの貢献の一つです。そして海外部門

では、強い水需要に加えて、アメリカを中心にAIやデータセンター向けの膨大な電力需要に対応するための受注が増加しています。順調な受注の背景には、私たちが今まで休むことなく開発を続けてきた新技術や新製品の存在が大きく寄与しています。皆さんのたゆまぬ努力が、この成功を支えているのです。

創業110周年を迎える2029年に向けた経営計画「Beyond 110」。掲げる目標は、「1・10・100・1000」です。これは、売上高1,000億円、営業利益100億円、そしてROE10%以上に成長し、世界No.1のポンプメーカーになるというビジョンです。日本、そして世界中の力強い需要に支えられ、多くの新しいポンプが世界中に出荷されています。これらのポンプが稼働することで、今後はサービス事業の伸びも大きく期待されます。この新製品とサービスという二つの強力な軸がフル回転することで、目標である売上高1,000億円は、すでに達成可能な数字になってきました。

売上高の目標達成への道筋が見える一方で、私たちが今期取り組むべき最大の課題は、1,000億円という売上を実現するための「つくる力」の整備です。この課題を克服するために、「フロントローディング」体制をスタートさせました。これは、お客様にできるだけ近いところでニーズを取り込み、満足いただける仕様を早期に確定する体制です。仕様を確実に、かつできるだけ早い段階で決めることは、社内の手戻りを撲滅し、後工程の自由度確保に直結します。めざすのは、伸び続ける需要に対応するために総作業負荷の引き下げを実現する「つくる力」の構築です。さらに、ボトルネックとなっている機械加工能力の強化も着実に進んでいます。2025年度上半期には、韓国と英国の機械加工会社が新たにトリシマファミリーに加わりました。また、インド子会社での新しい機械加工工場の投資も下期には完了する予定です。

「1・10・100・1000」は、2029年の目標値ではありますが、これはトリシマの最終的なゴールではありません。あくまでも「Beyond 110」、つまり創業110周年を越え、2050年につながる「ジャンプ」期間への通過点です。真にめざす姿は「社会に欠かせない企業」。企業は、世の中で役に立ち、お客様に喜んでいただけて初めて、その存在が認められるのです。

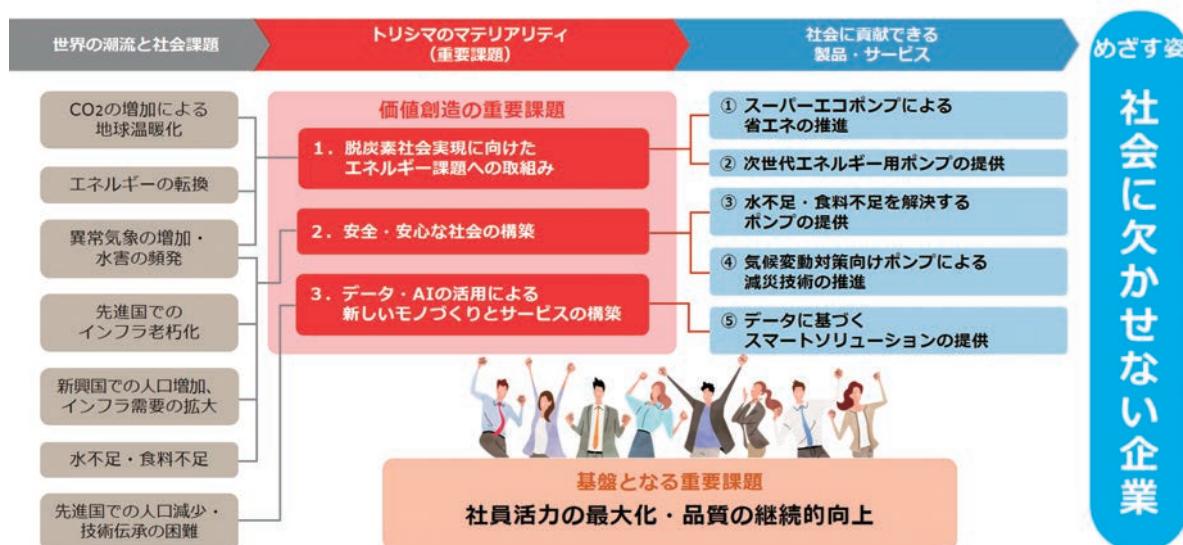
私たちが成長することは、人類が抱える大きな社会課題の解決に直結します。その課題とは、地球温暖化対策としてのCO₂削減、化石燃料から新しいエネルギーへの転換、豪雨や渇水などの異常気象への対応、人口増加に伴う水・食料不足、そして先進国におけるインフラの老朽化やサービス体制の高齢化など。ポンプ産業は、これら多くの社会課題の解決に貢献できる、非常にやりがいのある産業なのです。そう、トリシマには、安定した現状レベルの事業に満足するという選択肢はありません。私たちは、**たとえ困難であっても、世界を幸せにする道**を選びます。なぜなら、私たちの家族、そしてこれから生まれてくる未来の人々が、少しでも安全で幸せに暮らせる社会の構築に貢献していきたいからです。

私たちはポンプを通じて社会課題の解決に貢献し、「社会に欠かせない企業」をめざし続けます。これは、決して大きすぎる夢ではありません。たゆまぬ努力を続ければ、十分に実現できる**大きな夢**なのです。

トリシマが重要とする課題（マテリアリティ）を、私たち全員でもう一度しっかりと確認し、共に力強く歩み��けようではないですか、未来の社会に不可欠な存在となるために。（2025年9月25日「下期経営方針会議」にて）

トリシマが重要とする課題（マテリアリティ）

「ポンプ」で社会課題の解決に貢献して、『社会に欠かせない企業』をめざします。





COO MESSAGE

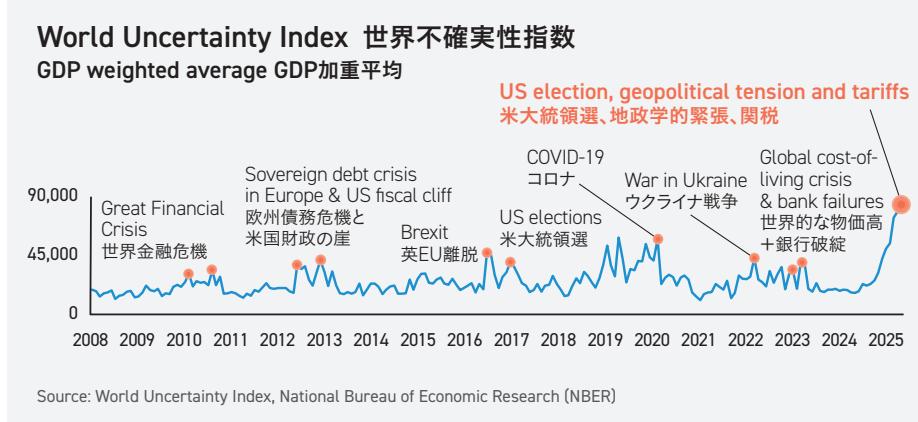
Acta Non Verba : Taking Action in Uncertain Times

Alister Flett Director, COO

As we move into the second half of 2025, I want to share powerful insights from our recent TGT meeting in Scotland and a global IT conference I attended. These experiences reinforced a critical mindset captured in Gerry's TGT message: **Acta Non Verba – Action Not Words.**

Opportunity in Uncertainty

The 2025 World Uncertainty Index shows global CEOs rate current conditions as worse than the Lehman Shock and COVID-19. When faced with such challenges, it's natural to worry and talk about difficulties. Our motivation can waver.



But when things are beyond our control, we must focus on what we can control – and then act. **Acta Non Verba.**

Our Track Record: Actions Speak Louder

This is proven Torishima DNA.

- During the Global Financial Crisis (2008-2010), we started TSS.
- During COVID-19 (2020-21), we expanded into Egypt and grew our desalination business, producing record numbers of pumps.

We transformed obstacles into opportunities through action.

Today's Opportunity: The Conventional Power Market

The Power Market is experiencing unprecedented growth in Japan and overseas, driven by AI infrastructure demand, growing populations, and the global need for stable power generation. This aligns perfectly with our 2025 business plan and our 2029 visions of 1.10.100.1000.

Already, this year our Power Market sales are strong and we must maintain this momentum, delivering the highest quality Boiler Feed Pumps, Cooling Water Pumps, and Condensate Pumps – on time, every time.

Deepening Our Roots While Reaching Higher

As we seize market opportunities, we must strengthen our foundation. Remember our “bamboo philosophy”? Bamboo develops extensive roots before rapid growth.

At the IT conference, I learned that successful AI transformation requires three critical “roots”: reliable data,

people who understand technology and business, and infrastructure for long-term innovation. This mirrors our six of our key investment areas: human capital, quality, innovation, productivity, digital transformation, and green initiatives. AI has potential but we must invest in key roots and take action to make it a reality.

The Future Is Automation

At AES Seals in the UK, I witnessed automation throughout their manufacturing – from design to production. They're doing it, not just talking about it.

At Torishima, our automated Procurement Payment System manages over 400 vendor payments monthly. But this is just the beginning.

I challenge each of you: Where can automation help in your area? What actions can you take?

Our Call to Action

I trust each of you will embrace Gerry's TGT message:

Acta Non Verba, Action not Words.

Despite global uncertainty, let's maintain our

confidence. If we act rather than just talk, Torishima will continue to grow and expand customer satisfaction globally. The power market opportunity is before us. Our foundations are strong. Our vision for 2029 is clear.

Now is the time to act.

行動こそがすべて – 不確実な時代における「Acta Non Verba」

取締役共同COO Alister Flett

2025年下半期を迎えるにあたり、先日スコットランドで開催されたTGT会議と、私が参加したグローバルITカンファレンスで得た重要な学びを皆さんと共有したいと思います。これらの機会で改めて実感したのは、Gerald Ashe副CEOのメッセージに込められた精神 – 「Acta Non Verba (言葉ではなく行動を)」という姿勢です。

不確実性の中にあるチャンス

2025年版『世界不確実性指数(左表)』によると、世界のCEOたちは現在の経済環境をリーマンショックやコロナ禍よりも深刻だと見ています。このような状況では、不安や困難を語りたくなるもので、モチベーションが揺らぐこともあります。

しかし、重要なのは「自分たちがコントロールできること」に集中し、行動に移すことです。— これこそが Acta Non Verba です。

行動が語るトリシマのDNA

トリシマでは過去にも行動によって困難をチャンスに変えてきました。世界金融危機(2008-2010年)の際には、ドバイにサービス工場Torishima Service Solutionsを設立しました。コロナ禍(2020-2021年)の際には、エジプト市場への進出と海水淡水化事業拡大により、ポンプ生産台数は過去最高を達成しました。まさに「行動が言葉よりも雄弁」であることを体现してきました。

新たな成長機会 – 発電市場の拡大

AIインフラ需要の拡大や人口増加、安定的な電力供給への世界的なニーズを背景に、電力市場は国内外で力強い成長を見せていました。これは、2025年度経営計画および2029年度目標「1・10・100・1000(業界No.1、営業利益率10%、営業利益100億円、売上高1,000億円をめざす)」達成に向けた道のりと合致しています。

すでに、今年度の電力市場における売り上げは好調です。この勢いを維持し、世界中のお客様に、最高品質のボイラ給水ポンプ、冷却水ポンプ、復水ポンプを、納期通りに提供することに全力を尽くしましょう。

竹のように 一根を張り、高く伸びる

市場のチャンスをつかむためには、同時に「足元を固める」ことも重要です。2025年初頭に「竹は勢いよく伸びる前に、地中に広く根を張る」ことを話しました。

ITカンファレンスでは、AI変革の成功には、次の3つの「根」が不可欠であると学びました。1つ目は「信頼性の高い正確なデータ」、2つ目は「テクノロジーとビジネスの両方を理解する人財」3つ目は「長期的なイノベーションを支えるインフラ」です。

これは、私たちの6つの主要な投資分野「人財、品質、イノベーション、生産性、デジタル変革、環境対応」とも一致しています。AIの可能性を現実のものとするためには、これらの「根」への投資と行動が欠かせません。

未来は自動化(オートメーション)にあり

英国のAES Sealsを訪問してきましたが、同社では設計から生産に至るまで、製造プロセス全体で自動化が進んでいるのを目の当たりにしました。彼らは言葉だけではなく、行動しているのです。

トリシマでも、購買支払システムを自動化し、毎月400件以上の取引先への決済を処理しています。しかし、これは始まりにすぎません。

自動化によって、あなたの仕事のどんな部分が効率化できますか? そのために、どんな行動を起こせるでしょうか?

行動への呼びかけ

Gerald Ashe副CEOのメッセージ、「Acta Non Verba — 言葉ではなく行動を」を胸に刻みましょう。

世界が不確実な状況にある今こそ、私たちは自信をもち、語るのではなく「行動する」ことで、さらなる成長と顧客満足の向上を実現できます。発電市場におけるチャンスは、目の前にあります。私たちの基盤は強固であり、2029年に向けたビジョンも明確です。

今こそ、行動の時です。

浸水から市街地を守る要の施設

宇部市 小串ポンプ場

小串ポンプ場は、浸水被害から宇部市の市街地を守るために建設された排水施設です。山口県の西部に位置し、中核市である宇部市の中心を流れる二級河川真締川まじめ がわの流域は、水はけが悪く台風や集中豪雨時には内水氾濫の危険が高い地域でした。そのため、地域住民の生命・財産を守るべくポンプ場が整備されました。

小串ポンプ場の周辺は、住宅地のほかに山口大学小串キャンパスや大学付属病院、宇部工業高等学校などがあり、主要幹線道路やJR宇部線も通る市民生活のライフラインを支える重要な地域です。ポンプ場が稼働してからは、市内の浸水被害は大幅に減少しており、宇部市民の安全で快適な生活環境を守るため、今日もその役割を果たしています。

ポンプ場には、トリシマの立軸斜流ポンプが3台設置されています。具体的には、モータ駆動の口径1,350mmポンプが1台、同じくエンジン駆動が1台、



小串ポンプ場外観

そしてエンジン駆動の口径2,200mmポンプが1台です。雨が降ると、まずモータ駆動のポンプが自動で始動し、雨量の増加に応じてエンジン駆動のポンプが順次始動するように設定されています。これにより、降雨量に見合った排水能力となり、運転時間に対してランニングコストが抑えられ、維持管理性や経済性の高い運転が行われます。

保守管理は、宇部市役所と運転管理業者が密接に連携して行っています。今回お話を伺った市役所の友末様、井村様、河野様は「市民の生命・財産を守る」という使命を胸に、降雨予測に基づき大雨が予想される場合は事前にポンプを始動させるなど、迅速な対応に努められています。また、機器が常に正常に作動するよう、定期的な点検を欠かさず実施し、信頼性の高い設備を維持されています。こうした日々の取り組みによって、地域の安心・安全が支えられています。



ポンプ場が守る、 宇都市の豊かな暮らし

小串ポンプ場は単なる防災インフラではありません。この施設が守るのは、市民が愛する「緑と花と彫刻のまち」、そして豊かな文化や暮らしそのものです。宇都市は、町の至るところに彫刻作品が配置され、まるで街全体が美術館のようです。小串ポンプ場のすぐ隣にも彫刻作品「大首Ⅲ」が設置されており、彼方を見つめる大きな犬の首は地域と施設を見守っているように見えます。また、人気アニメ「エヴァンゲリオン」の監督、庵野秀明氏の出身地としても有名で、市内ではエヴァンゲリオン関連のイベントやラッピングバスの運行など、地域文化と観光資源を結びつけたユニークな取り組みも行われています。

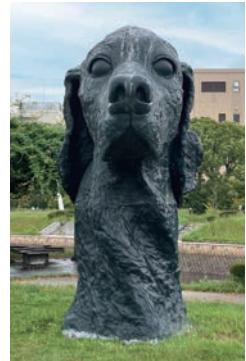
さらに、地元の味として広く知られる「宇部ラーメン」は、茶濁した濃厚な豚骨スープの強い香りと、中太で柔らかめの麺が特徴です。筆者も宇部を訪れる際には必ずこのラーメンを味わい、地域の魅力も共に味わっています。



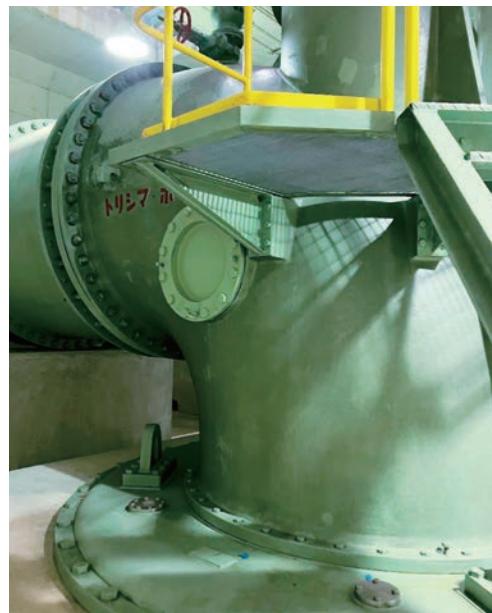
取材に協力いただいた、左から河野様、友末様、井村様

小串ポンプ場は、これからも宇都市役所と運転管理業者の不断の努力により、安定した運転と適切な維持管理が続けられ、市民の安心・安全を支える「緑の下の力持ち」としての役割を果たしながら、宇都市の豊かな暮らしを見守っていくことでしょう。

取材／広島支店 中村 亮太



ポンプ場の隣に設置された迫力のある大きな犬の彫刻作品「大首Ⅲ」



エンジン駆動の口径2,200mmポンプ



エンジンと減速機

Project Highlights

01 大輪田ポンプ場改修プロジェクト ～未来の災害に備える

神戸市より大輪田ポンプ場ポンプ設備他更新工事を受注

大輪田ポンプ場がある神戸市兵庫区は古くから港湾として発展し、日本の歴史に深く関わってきました。奈良時代には高僧の行基が「^{おおわだのとまり}大輪田泊」を築き、平安時代末期には平清盛により本格的な人工港湾として整備され、日宋貿易の拠点となり栄えてきました。

六甲山と瀬戸内海に挟まれた神戸市では、昨今の気候変動の影響による高潮や集中豪雨のリスクが高まるなか、市民の安心・安全な暮らしを守るために海岸保全施設の機能維持と強化を進めています。その一環として、設置から50年以上が経過して老朽化した大輪田ポンプ場の設備更新と能力増強を目的とした、本改修プロジェクトが計画されました。

本ポンプ場は新川運河の末端に設置されており、潮位が上昇して自然流下できなくなると大輪田水門を閉じて、ポンプで強制排水しています。今回の改修では、ポンプの更新に併せて吐出し量を120%増強します。

この能力増強に伴い、吸水槽内ではポンプ性能に悪影響を及ぼす水中渦や空気吸込渦が発生する懸念があるため、トリシマの渦対策技術である「渦対策リング」および「二重ラッパカン」をポンプ本体に付設し、安定した運転を確保します。

未来の災害に備え、地域の安心・安全を支えるインフラ整備の一翼として、トリシマは今後も最新技術と豊富な経験で社会に貢献していきます。



大輪田ポンプ場外観

ポンプ名称	No.1～3排水ポンプ
口径・形式	SP1400 (横軸斜流ポンプ、渦対策装置付き)
台 数	3台
全揚程	4.0 m
吐出し量	307 m³/min
原動機容量	280 kW

02 庄内下水処理場 雨水系ポンプ増量改造計画 いよいよ完了へ

豊中市上下水道局より

令和7年度庄内下水処理場2系雨水ポンプ設備更新工事向け大型ポンプを受注

庄内下水処理場は、大阪府豊中市の南端、一級河川神崎川の右岸にあります。明治以降における尼崎港の近代化により、豊中市の川沿いには相次いで工場が建設され、昭和初期には重化学工業地帯が形成されました。その結果、高度経済成長期には家庭や工場からの排水によって神崎川の汚染が著しく進み、「死の川」と呼ばれるほど環境が

悪化しました。さらに、工業用水のための地下水汲み上げで地盤が沈下し、高潮や大雨のたびに浸水被害で悩まされたため、地域住民より下水処理場の整備が強く求められました。

この要望を受け、1970年に処理場の第1期工事が開始され1973年には供用を開始、1980年には第2期工事も完了

し、全体計画の大部分が完成しました。その後、神崎川の水質は大きく改善し、多様な生物が生息できるまでに回復するとともに地域の浸水被害も軽減され、住民の方々が安心して生活できるようになりました。

しかし近年では、ゲリラ豪雨や線状降水帯による集中豪雨災害が頻発し、再び浸水被害の発生が心配されるようになりました。豊中市では、こうした自然災害に対し、施設の信頼性を向上させるための「予備機化」に取り組んでいます。雨水ポンプの台数はそのまで1台ごとの排水能力を増強することで、ポンプ1台が稼働できなくても機場全体では排水能力を確保できるようになります。

例えば、1m³/秒の排水能力をもつポンプが5台設置されている機場（合計排水量5m³/秒）の場合、1台あたりの能力を1.25m³/秒に増強すると、4台で合計5m³/秒の排水

量を確保することができます。

本工事も「予備機化」の一環で、2018年から5台ある雨水ポンプのうち4台を対象に整備・改造を順次行っており、今回が最後の工事となります。

現在は、2027年5月の竣工を目指して、ポンプの設計・製作および工事の施工計画立案が進められています。ポンプ設備の改修と更新によって施設全体の信頼性と機能性がさらに向上し、流域で生活する人々の安心・安全な環境づくりに貢献することが期待されています。

ポンプ名称	雨水ポンプ
口径・形式	CFV1500 (立軸渦巻斜流ポンプ)
台 数	1台
原動機容量	1,350 kW

03 老朽化更新提案による他社製ボイラ給水ポンプの更新を受注

かに 大王製紙可児工場のボイラ給水ポンプがすべてトリシマ製に

大王製紙株式会社の可児工場は、本社のある三島工場に次ぐ規模を誇る生産拠点で、敷地面積は約30万m²（約9万坪）に及ぶ広大な工場です。植林木チップや古紙からパルプを製造し、日常生活で目にする紙製品から工業用まで幅広い紙を一貫生産しています。1日あたりの生産量は、パルプ・約1,200トン、紙・約1,010トンに達し、とくに「エリエル」ブランドのティシューやトイレットペーパーをグループ内で最も多く生産しています。

同工場では、生産設備を稼働させるための電力の約8割（約60,000kWh）を自家発電で賄っており、その動力源として回収ボイラ（2RB・3RB）2缶、スラッジボイラ（4SB）1缶、バイオマスボイラ（6BB）1缶が稼働しています。

今回受注したボイラ給水ポンプ更新対象のボイラ設備（2RB）は、蒸解工程*で発生する黒液（薬品と木材成分の混合液）を回収・再利用するもので、蒸気や廃液の熱を効率的に再利用し、高いエネルギー効率を実現しています。

これまで使用されていた他社製ポンプは、長期使用により部品の老朽化が進み、故障やトラブルの頻発、整備費用の増加といった課題が生じていました。こうした状況を受け、

トリシマが更新提案を行い、このたび受注に至りました。

同工場では、今回対象の2RB No.1,2以外のボイラ給水ポンプはすでにトリシマ製をご使用いただいており、定期的なメンテナンスも実施いただいている。さらにトリシマのサービス担当（SV）への信頼や、機器の振動モニタリングシステム「TR-COM」の導入を通じた、当社製品およびサポートへの高い評価も背景に、今回もトリシマポンプをご採用いただきました。これにより、可児工場のボイラ給水ポンプはすべてトリシマ製となります。

今後もお客様のご期待に応えるべく、高品質な製品とサービスを通じ、安定した工場稼働の継続に貢献していきます。

*蒸解工程：紙の原料となるパルプを製造する際、木材チップを薬品で煮て繊維を取り出す工程。

ポンプ名称	2RB No.1,2ボイラ給水ポンプ
口径・形式	MHD100/7F
台 数	2台
原動機容量	430 kW

Project Highlights

04 インドネシアの大型地熱発電所向けに温水ポンプを受注

富士電機株式会社からインドネシアのムアララボ2号地熱発電所向け温水ポンプを受注

ムアララボ地熱発電所は、インドネシアの民間発電事業者であるPT. Supreme Energy Muara Labohが運営する発電所で、西スマトラ州南ソロック県に位置しています。2号機(80MW)は、2019年12月に商用運転を開始した1号機(85MW)に隣接して増設されるもので、完成後は総発電容量約170MWの大型地熱発電所となる予定です。

インドネシアには約130の活火山が存在し、世界第2位の地熱エネルギー資源を有しています。現在の地熱発電容量は約2,400MWで世界第3位ですが、2030年までに5,800MWまで増設し、世界首位をめざす方針が掲げられています。

本発電所では、地下マグマから取り出した200°C以上の蒸気でタービンを回転させ、直結された発電機により発電します。地熱発電はCO₂排出量が極めて少ない再生可能エネルギーとして注目されており、持続可能なエネルギー供給に貢献する発電方式です。この地熱発電を構成する主要機器の一つである温水ポンプ(Hot Well Pump)は、タービンを通過した地熱蒸気が復水器で凝縮された後の温水を、復水器から冷却塔へ循環させる役割を担っています。厳しい吸込条件に対応するため、バレル(吸込ピット)一体の立型構造および低NPSHインペラを採用しています。また、

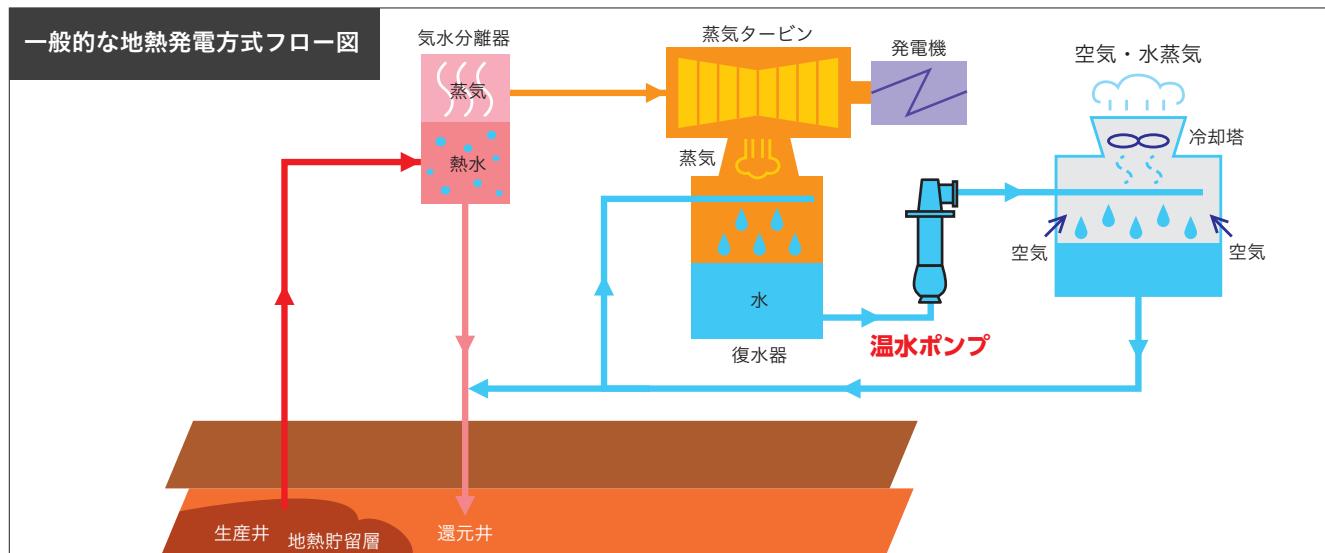
地熱蒸気は腐食性が高いことから、接液部には高い耐久性を有する特殊ステンレス鋼を使用しています。

トリシマの地熱発電所向け温水ポンプは、これまで日本国内をはじめ、インドネシア、トルコ、フィリピン、メキシコ、ケニア、ニュージーランドなど、世界30ヶ所以上の発電所に納入し、いずれも順調に稼働しています。こうした豊富な実績、製品品質、そして充実したアフターサービス体制が高く評価され、今回の受注につながりました。

本プロジェクトは、地熱蒸気タービンや発電機といった主要機器を富士電機株式会社が製造し、融資機関や井戸掘削に関わる技術支援も日本企業が担っています。まさに、日本の技術力・事業遂行力・資金力が結集したプロジェクトといえます。

トリシマは、今後も日本政府が推進する「質の高いインフラパートナーシップ」を通じ、アジア諸国との信頼関係をより一層強化するとともに、ポンプ技術を通じて持続可能なエネルギー社会の実現に貢献していきます。

ポンプ名称	Hot Well Pump
口径・形式	SPTV1100
台 数	2台
原動機容量	980 kW





このエリアの記事については、冊子のみの掲載としており、
プランクとさせていただいております。ご了承願います。

佐賀県で開催された全国土地改良大会に展示ブースを出展

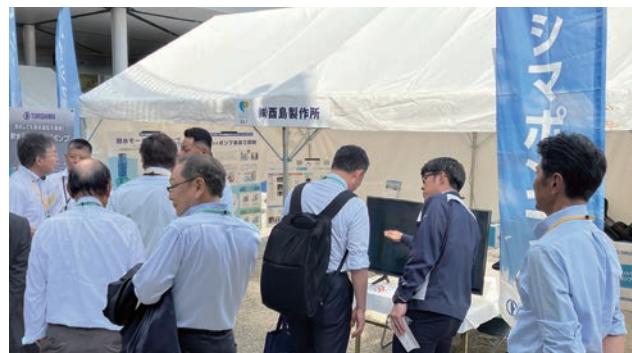
2025年10月15日、佐賀県のSAGAアリーナにて「第47回全国土地改良大会(佐賀大会)」が盛大に開催されました。

近年、農業・農村では人口減少や高齢化、担い手不足などの課題が深刻化する一方で、食料の安定供給と多面的機能の維持がますます重要になってきています。そのような状況のなか、本大会は全国の土地改良事業関係者約4,000人が一堂に会し、農業・農村の持続的発展や地域振興について意見交換を行う大規模なイベントとして、毎年各地で開催されています。

今回、佐賀県での開催ということで、佐賀にゆかりのあるトリシマは企業展示ブースを出展しました。展示ブースでは、農業の生産性向上や施設維持管理の効率化、そして災害に強い農業・農村づくりに貢献する技術として、耐水ポンプ、渦対策ポンプ、遠隔監視操作システムを紹介し、多くの来場者の関心を集めました。



式典の様子



展示ブース

たかつき産業フェスタに出展



高槻市内の事業者がもつ製品や技術、魅力などを多様な展示や体験を通して幅広い世代の方々に知っていただくことを目的に開催されるイベント「たかつき産業フェスタ」が11月8日に高槻市の安満遺跡公園で開催されました。当日は天候にも恵まれ、会場には1日を通して過去最大の約14,000人もの来場者があり賑わいを見せっていました。

トリシマのブースではトリポンの形に組み立てる工作を配布し、親子で熱心に制作に取り組む姿も見られました。高槻城公園芸術文化劇場の大ホールの名前が「トリシマホール」ということで話しかけてくださる方や、昨年出展した際の出品などをまだ覚えてくださっている方もいらっしゃいました。また、キャラクター大集合のイベントではトリポンが出演し、たくさんの子どもたちに囲まれるなど地域の方々と交流を図ることができました。

インドネシア子会社の社名変更と移転のお知らせ

インドネシアにはトリシマの子会社が3社ありますが、現地パートナーであるP.T. GUNA ELEKTROとの合弁解消により、株式会社西島製作所の完全子会社となりました。これに伴い、下記2社の社名が変更されました。

旧: P.T. Torishima Guna Indonesia (TGI:ポンプ製造拠点)
⇒ 新: P.T. Torishima Pump Mfg. Indonesia

旧: P.T. Torishima Guna Engineering (TGE:ポンプメンテナンス・サービス拠点)
⇒ 新: P.T. Torishima Services Indonesia ※こちらのみ移転しています。
新住所: Kawasan Industri MM2100, Jalan Selayar II Blok H-12, Cikarang Barat, Telajung, Bekasi, West Java
※ P.T. Geteka Founindo(GTK:ポンプ鋳物工場)は、変更ありません。



優良従業員表彰

大阪商工会議所から

2025年度優良商工従業員表彰において、山田 直樹 氏（サービス管理部）が晴れの表彰を受けました。この表彰は、卓越した業務上の知識、技術をもち、また豊かな経験から創意、工夫、改善により業務の向上に貢献した方、さらに後進の指導力に富み、業績向上に貢献した方が対象となるものです。



山田 直樹 氏

大阪府工業協会から

2025年度永年勤続優良従業員表彰において、潘 応康 氏（研究開発部）、田中 篤史 氏（東京産業営業部）、木村 康和 氏（東京産業営業部）が晴れの表彰を受けました。この表彰は、勤務成績が良好であり、業務上の知識および技術に優れ、他の社員から尊敬され模範となる方、また、業務上の創意、工夫、考案、研究などにより製品開発、品質改善、技術向上などに寄与された方、さらに後進の指導、社業の推進に尽力するなど企業の業績向上と発展に寄与し、貢献された方に対して贈られるものです。



潘 応康 氏



田中 篤史 氏



木村 康和 氏

高槻商工会議所から

2025年度優良従業員表彰において、桑原 英数 氏（ポンプ製造部）、井上 恵美 氏（HR部）が晴れの表彰を受けました。この表彰は高槻市内の事業所に永年にわたり勤続し、旺盛な勤労意欲で能率の向上に努め、会社の業績向上と発展に貢献した方に贈られるものです。



桑原 英数 氏



井上 恵美 氏

2025年度 前期技能検定を実施



機械組立仕上げ作業

8月24日の前期技能検定のうち、機械加工（普通旋盤作業、数値制御旋盤作業、数値制御フライス盤作業）の1職種3作業と仕上げ（機械組立仕上げ作業）の実技試験が本社工場で行われ、当日は10名が受検しました。受検者たちは、日頃培った技能を存分に発揮しようと、真剣な眼差しで試験に臨んでいました。また、鋳造（鋳鉄鋳物鋳造作業）の実技試験も行われ、5名が受検しました。学科試験は8月31日と、9月7日に行われ、7名が合格しました。技能検定は、技術者のスキルを公的に証明する大切な制度です。トリシマでは社員の技能向上に資する資格取得を積極的にサポート。技能検定をはじめ、さまざまな資格取得支援制度を整え、社員の学ぶ姿勢、挑戦する姿勢を尊重し、成長を応援しています。また、ものづくりに携わるメーカーとして「技術を磨き続けられる環境」を提供し、人材育成と技能・技術の継承に力を注ぎ、次世代のものづくりを支えています。

厚生労働省より 献血功労者として表彰

このたび、トリシマは厚生労働省より献血功労者として表彰されました。これは、日頃より社員の皆様が献血活動に積極的に協力していることが、地域社会への貢献として高く評価された結果です。



トリシマが挑む「アジャイル革命」

未来を切り拓く新しい働き方

第2回

新しい働き方を体験するアジャイルトレーニング

今回は、社員へのアジャイルトレーニングを行っている、松本葉子さんと、井伊秀樹さんにお話をお聴きしました。

どのようなトレーニングですか？

永和システムマネジメント社から提供いただいている「体験型」のトレーニングです。「楽しく学び、仕事も楽しくなり、そして成果につながる」ことをめざしています。意外に思われるかもしれませんが、トレーニングの対象者はITメンバーに限られていません。2023年7月より開始した基礎研修は、現時点で既に約350名が受講しました。

チームで高得点をめざす「折り紙ゲーム」にアジャイルの手法「スクラム」を取り入れ、参加者は楽しみながらスクラムの実践方法を学びます。例えば、かんばんボードの使用法、役割理解、「計画・実行・振り返り・適応の基本サイクル」などです。本ゲームは「前例がなく計画の立てづらいプロジェクト」を模しており、サイクルを回して経験から学び計画を改善することで、継続的に計画の精度が向上するプロセスを体験します。

さらに、予期せぬ計画変更イベントを通じ、高い価値を出すために「変化を恐れないこと」の大切さや、その際のチームの心理を体験。チームでの共同作業をすることにより一体感がうまれ、モチベーションが向上することも体験できます。



情報システム室
課長 井伊 秀樹
(いーちゃん先生)



総務部
松本 葉子



アジャイルトレーニングの様子

トレーナーとして思うこと

折り紙ゲームで部署の垣根を越えて協力し、高得点をめざすチームの姿を見ると、業務におけるチームワークの大切さを改めて感じます。そして、チームワークに加えて、「まずは行動」することと「変化を楽しむ姿勢」も、大きなチャレンジにつながる大切な考え方として伝えたいと思い、試行錯誤しています。大きな目標も一口サイズにして着手し、その結果を短いサイクルで関係者に共有してフィードバックをもらう。必要あればすぐに進め方を変える。

この研修で学ぶアジャイルの考え方は、日々の業務改善や新たなサービスの創出など、あらゆる領域で大きな力を発揮すると確信しています。また、部署や国境を越えた多様なチームが、目標やビジョンを共有して達成していく、その大きな可能性も強く感じています。このようなアジャイルなやり方を従業員が学ぶことで、「変化を恐れず価値ある挑戦をする」事例が増えることを心から願うとともに、この文化こそが、私たちの未来を切り拓く力になると信じています。



「アジャイルって楽しいの？」

短いサイクルで成果を出し、チームで課題を解決していくなかで、一体感や達成感を味わうことができます。また、チーム内で心理的安全性が確保されていることも大切です。お互いを尊重し合い、率直に意見を交わすことができる環境が、仕事へのモチベーションをさらに高めてくれます。

アジャイルに興味を持ったら、[井伊までご連絡を！](#) 社内・社外の多くの方から連絡をいただけると嬉しいです。

快晴の空の下、笑顔あふれる一日、

2025年度 社内運動会・昼食会・佐賀物産展

11月8日、雲一つない快晴に恵まれたこの日、2025年度の社内運動会、昼食会、佐賀物産展が開催されました。

昨年は残念ながら雨で運動会が中止となりましたが、今年は雲一つない快晴に恵まれ、絶好のイベント日和となりました。



もうちょっと



昼食会ではBBQや屋台で、フランクフルトや焼きそばなど、定番のメニューはもちろん、ビーンズカレー、ケバブサンドなどのハラルフードも並びました。

暑さの中で冷たいビールを片手に乾杯する社員も多く、「天気も最高、ビールも最高!」とあちこちで笑顔が広がりました。



今年は本社前エントランスで、佐賀県とのコラボ企画「佐賀物産展」を開催。

有明海産の海苔、嬉野茶、小城羊羹、白石れんこん、佐賀牛カレーなど、佐賀県の特産品が並び、昼食会の合間にも多くの社員やご家族が立ち寄り、買い物を楽しみました。



最後は毎年恒例のお楽しみ大抽選会。今年は旅行券やNintendo Switch、人気家電、国産米など、豪華景品が次々に登場し、当選番号が読み上げられるたびに歓声と笑い声が響きました。



スポーツと食、そして佐賀県との交流が一体となった素晴らしい一日となりました。





3泊5日 / 弾丸ツアー in インド

3泊5日の弾丸スケジュールで海外へ飛び立つ研修ツアー「弾丸ツアー」が今年も行われ、選抜メンバー10名がインドにあるトリシマのサービス工場TPIPL(Torishima Pumps India Private Limited)を訪問しました。現地では、自社製品が活躍するポンプ場を見学したり、スタッフとの交流を通じて仕事のやりがいや魅力を改めて感じました。今年度も「次世代リーダー研修」として、**事前研修** **現地研修** **社内報告会** の三段構えで実施され、短期間ながらも学びと刺激にあふれたプログラムとなりました。



現地研修



10月 27日	出発
28日	1日目 TPIPLにて自己紹介 オフィス、工場見学
29日	2日目 客先訪問 ベンガルール郊外にあるポンプ場 (TK Halli Pumping Station) へ。
30日	3日目 研修 (TPIPLについて知る) ★Manojさんより説明 新加工機械の説明、写真撮影
31日	帰国



社内報告会

昨年と同様に、事前研修で作成したアクションリストの達成状況をふまえ、現地研修の報告と、
これから日々の行動をどう変えていくのかを発表しました。



現地研修の感想

絶え間なく鳴り響くクラクション、四方八方を走り抜けていく車やバイク、人々。整備が行き届いていない街並みの中に、突然そびえ立つビル群。料理だけでなく、すべてが“スパイシー(刺激的)”な体験でした。そんななかでも、TPIPLスタッフの温かさに触れ、同じトリシマメンバーとしての“繋がり”を実感する機会となりました。研修に関わってくださった社内の皆さん、そして快く送り出してくれた家族に心から感謝しています。

きれいな水があること。日本では当たり前だが海外では水の供給に苦労している国がたくさんある。ポンプメーカーとしてそんな国の生活の安定と国の発展に貢献できることを認識できた研修だった。

海外は初めてで不安でしたが、TPIPLの皆さんの温かい歓迎と手厚いサポートのおかげで、安心して学ぶことができました。拙い英語力で苦戦したものの、最後はメンバー・スタッフの方々へ、似顔絵とともに感謝の気持ちを伝えることができて良かったです。

初めての海外で言語面など不安要素はありましたが終えてみると大変いい経験になりました。特に毎日工場で作業している自分としてはTPIPL工場の見学や、実際にポンプ場に入りどのようにポンプが稼働しているのか、日頃とはまた別角度で学ぶことができたのは大きな財産になったと思います。今回の研修を無駄にしないように自職場に持ち帰りグループの底上げに繋げたいと思います。

インドでは、現地の方のエネルギーとポンプ場の大きさに驚きました。トリシマポンプが世界中で活躍していることを再確認し、ものづくりを通して人の暮らしに貢献できることに改めて誇りを感じることができました。

オフィスや浄水場、ショッピングモールの雰囲気はそこまで大きく日本と変わりませんでしたが、交通事情や都会から少し外れた場所での街並みは大きく異なっていました。見学した浄水場ではCDMが町へ水を送り届けており、インフラ発展に貢献できていることを実感できました。

日本とは全く違う環境で特に人々の活気に圧倒されました。実際に動いているポンプを見たりTPIPLの方々とコミュニケーションをとることで刺激を受け、モチベーションアップにつながる貴重な経験でした。